別記様式第6

論 文 審 査 の 要 旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（　　学　術　　） Doctor of Philosophy	氏 名 (Candidate Name)	楊　柳
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目 (Title of Dissertation)

アングリマーラ伝承の東漸ー仏教思想の変遷と説話の展開ー

論文審査担当者 (The Dissertation Committee)

主　　査 (Name of the Committee Chair)　教授　荒見　泰史

審 査 委 員 (Name of the Committee Member)　教授　本田　義央

審 査 委 員 (Name of the Committee Member)　教授　杉木　恒彦

審 査 委 員 (Name of the Committee Member)　准教授　河本　尚枝

審 査 委 員 (Name of the Committee Member)　准教授　李　郁惠

〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)

本論文は，インドから日本にまで伝わる仏教説話，とくにアングリマーラ伝承を対象とし，説話の伝播と思想背景の変化について検討したものである。

アングリマーラとは，釈迦の在世の間の人物で，人を殺してその指を飾りとした殺人鬼として今日にまで伝えられる。釈迦の一代記である仏伝故事の中にも登場し，釈迦によって考えを改め，仏弟子として修業に努め最後には弟子として大成したとも伝えられる人物である。この説話はインドで発祥して中央アジアを経て中国にまで伝えられ，経典やレリーフ，壁画などに多く残されていることから，広範な地域で長い時間語り継がれてきたものとわかる。基本的なストーリーを受け継ぎつつ，地域や時代，思想背景によって細部に異なるプロットが加えられ，また時には結末も異なるなど多様な展開を見せていることは他の説話と同様である。しかし，このアングリマーラ伝承の説話資料としての研究の重要な点は，殺人鬼という極悪人の典型が仏弟子となるという単なる意外性に始まり，殺人鬼が成仏しうるか否か，仏性は本当に万物に備わるのか，戒律を犯した者が成仏できるのか，という仏教の教えの根幹にもかかわる問題を含んでいる点で，単なる説話に留まらず，各時代の仏教の発展段階に応じて教理の研究と合わせて議論されている点にある。つまり，この伝承を読み解くことは，各時代，各地における思想の展開を敏感に読み解きうる可能性を秘めているところにその重要性の一つがあるということができるのである。

本論文では，インドから中国までのアングリマーラ伝承を，そのような思想背景の変遷とともに読み解いていく。

論文の構成は，次のとおりである。

序論では、問題提起と先行研究，研究方法について論じ，論文全体の構成について紹介するところから始まる。

第１章では，「アングリマーラ伝承の中国への伝播」として，先ずインドに残された仏教経典，漢訳仏教経典にみられるアングリマーラ伝承を広く収集し，翻訳と解釈を加えたうえで解説を付している。次に，石窟などに残されるアングリマーラを描いたとみられるレリーフ，壁画の類を調査し，資料の状態と説話の読み解きなどについて概略をまとめている。第１章を総じていえば，今日目にすることのできるアングリマーラ伝承に関する資料を網羅的に集めたもので，資料を俯瞰的に

見ることができるように意図されている。その資料性のみをとっても学術的な価値があると言える。

第２章では，「アングリマーラ伝承における仏教思想の変遷：業論から如来蔵へ」として，第１章で収集した資料を思想背景から分析する。大きく分ければ原始仏教時代，部派仏教時代，大乗仏教時代となるが，その中の大乗仏教における如来蔵思想の展開期までの変化につき論じ，中国南北朝時代の南朝宋における求那跋陀羅の『央掘魔羅経』の翻訳とその背景にある南朝での如来蔵思想の展開と中国における受容と説話の関係について論じている。

第３章では，「仏教芸術におけるアングリマーラ伝承」として，図像資料について詳細に解説を進めその読みを行っている。中央アジアから中国にいたるまで，アングリマーラ伝承を残す図像は見落とされていたものも多くあり，それらの掘り起こしと解説はこの論文の重要な部分でもある。

第４章では，「アングリマーラ伝承の説話の展開」として，経典の読み解きからアングリマーラ伝承を分析し，最後には先の図像の読み解きと合わせて論を進め，総合的な説話の展開についての議論を行っている。

本論文は，次の３点で高く評価できる。

１．仏教説話の中でも，「アングリマーラ伝承」という，教理的な議論との関わりの深い説話を扱い，思想の変遷とともに変化する説話の様相について論じていること。

２．そのような重要な説話に関する資料を，文献資料，図画資料を調査して資料を作成しており，俯瞰的に説話の展開の状況を知りうるように整理したこと。

３．調査した図画資料の中にはこれまで学術的に見落とされてきた資料も多くあり，それらを調査発見したうえで論を展開していること。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和　6年　　8月　　1日

備考　要旨は，A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size,2pages (about 500 words).